

AUD / JPY 豪ドル円 月次レポート

前月振り返りと2026年6月の相場展望

発行日

June 1, 2026

対象期間

5月実績 / 6月展望

通貨ペア

AUD / JPY

発行頻度

Monthly

5月末レート（終値）

114.392

▲ +1.43%（5月月間騰落）

5月高値

114.733

5月安値

111.933

RBA金利

4.35%

BOJ金利

0.75%

今月のハイライト

5月は月間+1.43%と5通貨ペア中で2番目に大きい上昇幅（最大はUSD/JPYの+1.67%）。RBAの利上げと日銀の連続据え置きで金利差が一段と拡大した

RBAが5月5日に0.25%利上げを実施（4.10%→4.35%）。中東紛争起因の資源高・インフレ再燃が背景。豪州の輸出恩恵と国内インフレ上振れが重なった

RBA vs BOJの金利差は3.60ppに拡大。5通貨ペア中で最大の金利差となり、キャリートレード需要を強く支援

6月16日にRBA・Fed・日銀の3中銀が同日に会合開催。特にRBAの追加利上げ判断と日銀の利上げシグナルが交錯するリスクに注意

6月 基本シナリオレンジ

111 - 116円

RBA・日銀の同日会合（6/16）が方向性を決定（確率45%）

日豪政策金利差

3.60pp

5通貨ペア中最大の金利差でキャリー需要が最も強い

始値

112.783

5月1日

高値

114.733

月中最高値

安値

111.933

月中最安値

月間騰落

+1.43%

+1.609円

5月の相場動向

5月の豪ドル円は**112.78円**でスタートし**114.73円**まで**上昇**、月間+1.43%と5通貨ペア中で2番目に大きい上昇幅（最大はUSD/JPYの+1.67%）。最大の要因は**RBAが5月5日に0.25%利上げを実施**（4.10%→4.35%）したこと。中東紛争起因のエネルギー・資源高が豪州の輸出に恩恵を与えつつ国内インフレを再燃させており、RBAは追加引き締めを選択した。

一方、日銀は3会合連続（2026年1月・3月・4月）で0.75%を据え置き。**RBA（4.35%）vs BOJ（0.75%）の金利差は3.60pp**に拡大し、5通貨ペア中で最大の金利差となった。この高金利差がキャリートレードの継続を支援し、豪ドル買い・円売り需要を維持。月中の安値111.93円は日銀利上げ期待・リスクオフ場面での押し目。

主要イベントの影響

AU RBA 5月5日 利上げ

0.25%利上げ実施（4.10%→4.35%）

中東起因エネルギー高→インフレ再燃が背景

「インフレリスクは上振れ方向」と声明

JP 日銀 4月28日会合

0.75%を3会合連続で据え置き（2026年1月・3月・4月）

中東情勢・経済影響を見極める姿勢

6月16日会合での利上げ観測が浮上

5月の総括

5月は「**RBA利上げ×日銀据え置き**」という金利差拡大が豪ドル高・円安を強力に後押しした月。月間+1.43%は5通貨ペア中2番目の上昇幅。金利差3.60ppはキャリートレードの魅力を高めており、リスク選好環境が続く限り豪ドル円には底堅さが期待できる。6月は**RBA・Fed・日銀が同日（6/16）に会合開催**という異例の日程となり、3つの政策イベントが一度に相場に影響する可能性に注意が必要。

6月の注目ポイント

6月の最大の焦点は①**6/16 RBA会合**（追加利上げの有無：Westpacは25bp利上げ予測、他3大行は据え置き予測と二分）、②**6/16 日銀金融政策決定会合**（利上げシグナルの有無）、③**中国経済指標の動向**（豪州の対中輸出依存が高く、中国景気が豪ドルに直結）の3点。特にRBAと日銀が**同日（6/16）に開催**されるため、両会合の結果の組み合わせで豪ドル円が急変動する可能性がある。豪ドル円は最大金利差ゆえにキャリー解消時の急落幅が最も大きくなるペアであることにも要注意。

シナリオ別レンジ予測

強気	30%	RBAが追加利上げ・日銀据え置きで金利差さらに拡大	114 - 118円
基本	45%	RBA据え置き・日銀据え置きでレンジ内推移	111 - 116円
弱気	25%	日銀利上げ示唆・中国景気悪化で豪ドル円急落	105 - 112円

リスク要因

リスク要因	確率	方向	概要・影響
RBAが6/16に追加0.25%利上げ	中	豪ドル高	金利差3.85ppへ拡大。Westpacは6月・8月追加利上げを予測しており実施なら118円方向へ
中国景気の急激な悪化	中	豪ドル安	豪州の対中輸出依存が高く、中国PMI・生産指標の悪化は鉄鉱石安→豪ドル安に直結
日銀が6/16に利上げシグナル	中	円高	金利差最大ペアゆえにキャリー解消が最も激しく、105～108円への急落リスクが5ペア中最大
豪州1Q GDPの大幅下振れ	低	豪ドル安	資源高による輸出好調と個人消費冷え込みの綱引き。景気後退確認となればRBAの利上げ余地が縮小

6月の見通し

基本シナリオは**111～116円のレンジ推移**（確率45%）。金利差3.60ppという極めて大きなキャリー優位が豪ドル円を支えている。RBAが追加利上げなら118円方向への上昇余地。ただし**日銀が6/16会合でタカ派シグナル**を出せばキャリー解消で最も急激に下落するペアである点に十分注意。**同日開催のRBA・日銀会合の結果の組み合わせ**が6月相場の最大の分岐点となる。

用語解説

RBA（豪州準備銀行）

Reserve Bank of Australiaの略称。5月5日に0.25%利上げし現在4.35%。中東資源高によるインフレ再燃が追加引き締め背景。次回は6月16日。

日銀（BOJ）

日本銀行の略称。現在0.75%を維持中。次回は6月16日（RBAと同日）。日豪金利差（3.60pp）がキャリートレードを支えています。

資源通貨としての豪ドル

豪州は鉄鉱石・石炭・LNGなどの**資源輸出大国**。資源価格の変動や中国経済の動向が豪ドルに直接影響します。中東情勢によるエネルギー高は豪ドルにプラスに働きます。

キャッシュレート

RBAが設定する**豪州の政策金利**。現在4.35%で、変動住宅ローン金利など豪州の借入コスト全般に影響します。

キャリートレード / 巻き戻し

低金利通貨（円、0.75%）を借りて高金利通貨（豪ドル、4.35%）で運用し**金利差3.60ppから利益を得る取引**。リスクオフ時に一斉解消で円高・豪ドル安が急進します。

インフレ（CPI）

家計が購入する商品・サービスの**価格変動を測定する物価指標**。豪州では中東起因のエネルギー高で再び上昇傾向あり、RBAの追加利上げの根拠となっています。

免責事項

- 本情報は、AI（Anthropic社が提供するClaude）（以下、情報提供者）が作成し、GMOあおぞらネット銀行株式会社（以下、当社）がお客さまに提供いたしますが、当社および情報提供者が参照した情報およびそれに基づく情報提供者の見解の正確性、完全性、適時性を保証するものではありません。
- 本情報は、投資判断の参考となる情報の提供を唯一の目的としており、投資勧誘を目的とするものではありません。
- 本情報で言及した通貨や投資戦略は、投資に関する経験や知識、経済状況および投資目的が異なるすべてのお客さまに、一律に適合するとは限りません。
- 投資判断の最終決定は、お客さまご自身の判断で行っていただきますようお願いいたします。
- 本情報に記載された内容は、公開時においては最新の情報でない可能性があります。
- 本情報に基づき投資を行った結果、お客さまに何らかの損害が発生した場合でも、当社および情報提供者は、理由の如何を問わず、一切責任を負いません。
- 著作権等：本情報にかかる著作権その他の知的財産権は、別段の表示がない限り、当社に帰属するものとします。